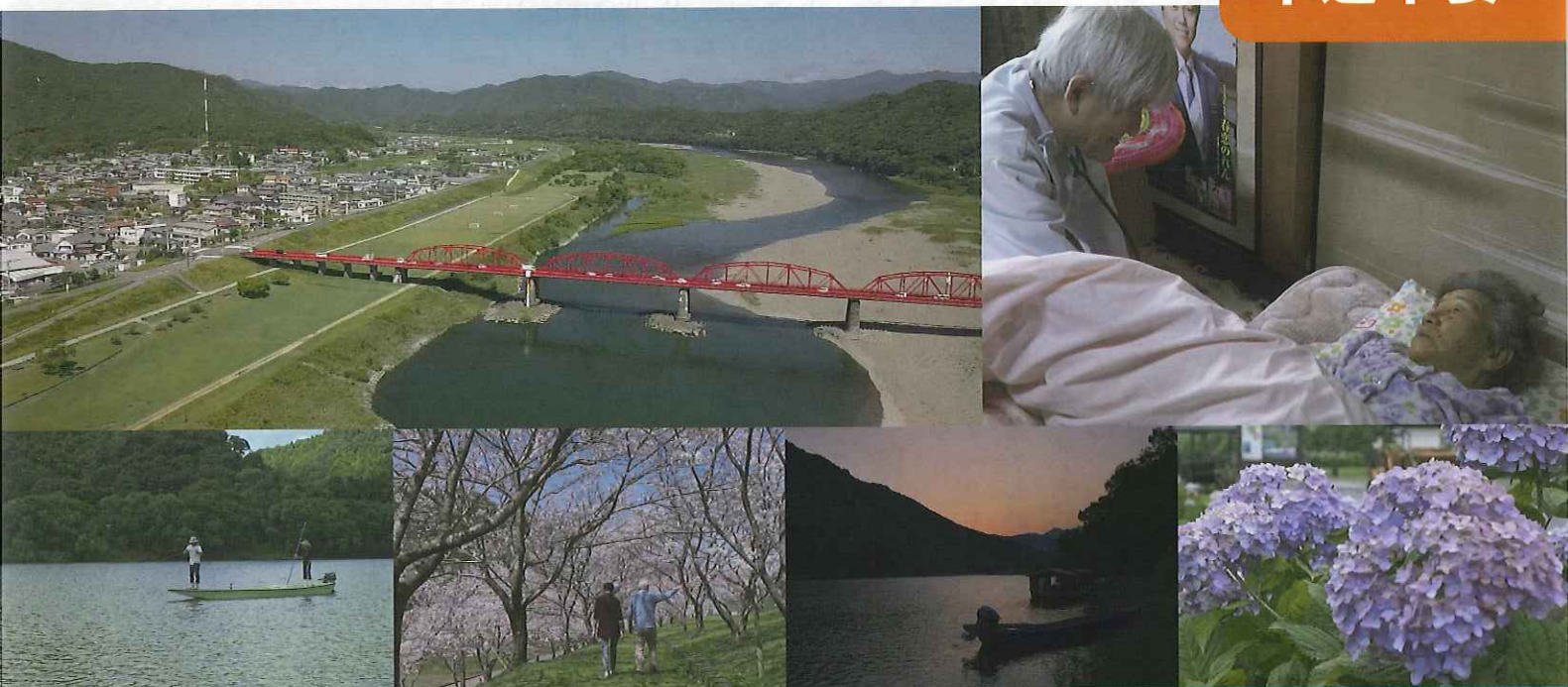


四万十

いのちの仕舞い

入場無料
申込不要



高知県四万十市の診療所を拠点に、
在宅医療に取り組む小笠原望医師を追ったドキュメンタリー映画。

四季折々の表情を見せる四万十川の自然を背景に、川の流域で暮らす人々と医師との交流を見つめながら、本当の豊かさ、本当の幸せといった人生の意味を問いかける。

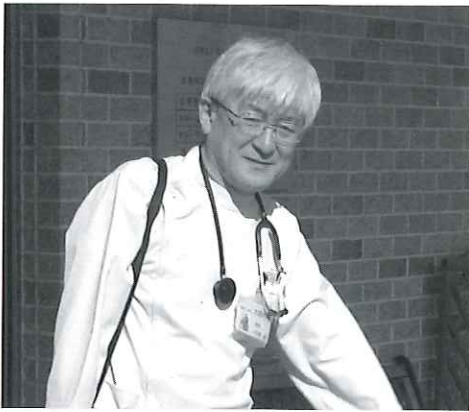
開催日 2019年6月8日(土) 15:00~17:00

会場 ハピネスふくちやま 4階 市民ホール

対象 京都府にお住まいの方

募集数 360名(先着順) ※定員を超えた場合はお断りする場合がございます。予めご了承ください。

【プロフィール】



大野内科院長
おがさわら のぞみ
小笠原 望 先生

- 昭和26年 高知県土佐市生れ
昭和51年 弘前大学医学部卒
同年 徳島大学第一内科入局
昭和52年 高松赤十字病院内科勤務
昭和63年 同病院神経内科部長
平成 9年 大野内科副院長(中村市)
平成12年 大野内科院長(中村市)
平成17年 医療法人 関(とき)の会 大野内科院長(四万十市)
- 現 況 自称「四万十市のゲリラ医者」として、
「神経難病、こころのケア、かかりつけ医」として奮闘努力中。
- 著 書 「神経内科治療ガイド」(共著)中外医学社
「医への想い しなやかに」医学書院
「いのちを支える」四国新聞社
「いのちばんざい」高知新聞社
「百歳との握手」こすもす
「いのちの仕舞い」春陽堂書店
「診療所の窓辺から」ナカニシヤ出版
「診療所の窓辺から」スタイルアサヒにて連載中

ぼくは「言葉」で抱きしめる医者

診療所の窓辺から、四万十川に架かる赤鉄橋がすぐそこに見える。少し上流に目を移すと、全長約一九〇キロメートルの四万十の流れが左から右に蛇行している。

この四万十川のほとりの診療所で働き始めて、十年を超えた。その前の二十年は、高松赤十字病院でへとへとになりながら、何でもする内科医を続けていた。疲れたが、楽しい毎日だった。地方都市の最終病院で、いのちのぎりぎりでのやりとりにとっぷりつかった二十年だった。

看護師さんたちと一緒にする仕事が好きで、当時は珍しかった訪問看護の付き添い役をしていた。ケアの視点を看護師さんたちに教えられた。そのころは医者は治療のみ、その他は看護にまる投げというのが多かった。

患者さんや家族との距離が近くなり、たくさんのドラマを体験した。「人間って大変、人間ってすごい」と思いながら、救急医療から終末期まで、何でもやってきた。

大病院の田舎医者を自称していたが、妻の父の診療所を手伝うために本当の田舎医者になったのが、十二年前。都市でも田舎でも、患者さんの期待するものは変わらない。このころは、すっかりかかりつけ医のいい気持ちにはまってきた。

小笠原 望・著「診療所の窓辺から」

出版年月2017年4月

【会場案内】

ハピネスふくちやま 4階 市民ホール

〒620-0035 京都府 福知山市字内記100

福知山市役所となり

福知山駅より徒歩13分

ハピネスふくちやま

